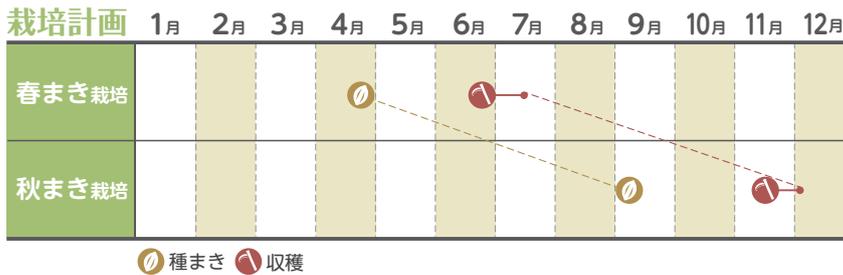


土壤医 藤巻久志

チンゲンサイ

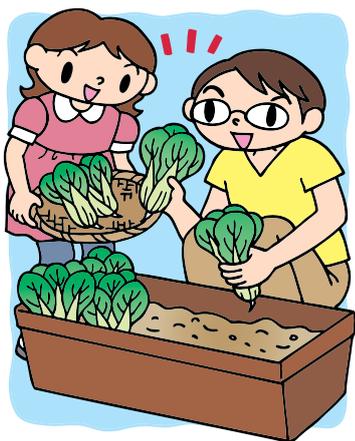


チンゲンサイ (アブラナ科アブラナ属)

チンゲンサイやタアサイなどの中国野菜がスーパーに並ぶようになったのは、日中国交正常化前年の1971年の広州交易会に参加した種苗会社が種を日本に持ち帰ったからです。

チンゲンサイやタアサイの種は、すでに遣隋使や遣唐使の時代に日本に持ち込まれていたはずですが、それらが根付かなかったのは、アブラナ属の野菜だからです。ほとんどのアブラナ属は他家受粉で、周りに菜の花が咲く畑では、他のアブラナ属と容易に交雑し、品種独自の形質を維持できません。今は採種技術の向上により、安定した品質の種が供給されるようになってきています。

チンゲンサイは、1970年代は青軸パクチヨイや青茎パクチヨイとも呼ばれていました。1983年に農林水産省が



流通の混乱を防ぐためにチンゲンサイに名称統一しました。漢字では青梗菜と書き、梗は芯の堅い茎を意味します。

チンゲンサイは生育期間が短く、暑さ、寒さに強い野菜です。4月から10月まで種まきできます。春まきや夏まきはアオムシやヨトウムシなどに被害されやすいので、被害の少ない秋まきの方が栽培は楽です。

日当たりと風通しの良いバラndaならプランターで栽培できます。深さ10cm以上のプランターに市販の培養土を入れ、条間10cmの筋まき、または10cm×5cmの点まきをします。順次間引き、本葉3〜4枚で1本立ちにします。農薬を使用しない家庭菜園では、間引きした物も間引き菜としてみそ汁の具などに利用できます。

土が乾燥すると肥料の効きが悪くなり、生育も鈍化します。水やりは朝やつて、夕に土の表面が乾く程度にします。追肥は1週間置きに1000倍の液肥を施します。

秋まきでは40〜60日で収穫できます。草丈15cmが目安です。チンゲンサイは中国野菜ですが、おひたし、グラタン、油炒めなど和洋中に利用できます。

JAグリーン津店が教える！
チンゲンサイ
栽培のポイント！



JAグリーン津店 城チーフ

〔連作障害〕
チンゲンサイは連作障害を起こしやすい野菜です。連作する場合はプランターの土を入れ替えるか、一年以上あけてからの栽培をおすすめします。

〔病気〕
特に梅雨の時期に要注意なのが、べト病です。カビが原因で発生する病気で、初期は葉が黄色く変色します。Zボルドーなどの薬剤で防除することもできますが、株間を広めにとって風通しをよくしたり、敷きわらなどで降雨による土のはね返りを抑えてべト病の発生を防ぎましょう。



Zボルドー

〔害虫〕

アブラムシやコナガの幼虫、ヨトウムシなどの害虫の被害にあいやすいため、発見したらすぐに手で除去しましょう。寒冷紗や防虫ネット、アファーム乳剤などで防ぐことができます。



アファーム 乳剤



防虫ネット

ダイコン

あなたも今日から 栽培名人

板木技術士事務所 板木利隆

栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春どり栽培 (二年子系)			①							②		
春どり栽培 (時無系)		②			①							
夏どり栽培 (春播みの系)			②			①						
夏どり栽培 (黒葉みの系)					②		①					
秋どり栽培 (各種)								②			①	

② 種まき ① 収穫 (関東地区を標準とした場合)



おいしくて形の良いダイコン作りのポイント

ダイコンは、強大な根を速いスピードで地中に形成するので、根形や品質が土壌や肥料栄養の影響を受けやすい性質を持っています。

そのためには、次のポイントを押さえて育てることが大切です。

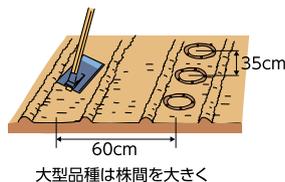
① 畑の準備と元肥の施し方

少なくとも種まきの20日以上前に畑全面に石灰をまき、石ころや木切れなどを取り除きながら30cm以上の深さによく耕します。吸肥力は強い方なので、前作に堆肥が施してあれば、特に堆肥を与える必要はありません。

痩せ地で有機物不足が心配なら、完熟堆肥と有機配合肥料をよく混ぜ合わせ、事前に醗酵させた物を、株と株の間に当たる所に施し、根の伸びを妨げないようにします。

② まきどきを守る

早まきし過ぎると病害虫の被害を受けやすく、遅過ぎると根の肥大不足になります。関東南部以西の温暖な平たん地のまきどきは8月中旬〜9月中旬です。品種による違いもあるので、種子を求めるときに適期を確かめ、適期範囲のやや遅めにまき、管理を入念にして成長を促進するよう心掛けましょう。



③ 間引きと追肥、入念な土寄せ

種子は1カ所5〜6粒を、瓶などで円状

に付けた溝にまきます。発芽して本葉1枚の頃から8〜9枚の頃にかけて3回ほど間引き1本立てにします。間引く際には、子葉がハート形で素直に開いている株を残すようにします。異常に育ちの早い株や、形が非対称の株は、岐根や短形になる場合があるので残さないよう注意しましょう。

間引いたら株の周りに土を寄せ、風で振り回されないようにに保護し立ち上がらせま

す。追肥は第2回の間引き時から半月ごとに3回ほど与え、土を掛けて畝を作ります。肥料は化成肥料と油かすに加え、米ぬかを混ぜると食味が良くなります。

④ 害虫の予防、駆除を怠りなく

アブラナ科野菜の常として各種の害虫(シンクイムシ、コナガ、アブラムシ、ハスモンヨトウなどの)被害が出やすいので、早めに発見、適応農薬を散布して防ぎます。農薬に頼らない防除法としてはソルゴーを何列か置きに作り障壁にすること、防虫ネットやべた掛け資材の被覆などがあります。被覆は種まき後3週間以内ぐらいにしないと生育に支障を来すので、除覆する時期に注意してください。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

種まきは円形の印を付けて直径5〜6cm



農業PR隊長カツラギ通信は ホームページで配信中!!

農業PR隊長カツラギ通信

みてね!



カツラギ PHOTO GALLERY

